

# 愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2015年24週 (6月2週 6/8~6/14)

2015年5月報

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: [eiseiken@pref.aichi.lg.jp](mailto:eiseiken@pref.aichi.lg.jp)

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

## 今週の内容

### トピックス

伝染性紅斑、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、手足口病、後天性免疫不全症候群、中東呼吸器症候群  
 病原体検出情報  
 定点医療機関コメント  
 感染性胃腸炎、溶血性レンサ球菌感染症、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、手足口病等

全数把握感染症発生状況 ( )内は件数。

結核(37)、A型肝炎(2)、レジオネラ症(2)、アメーバ赤痢(2)、ウイルス性肝炎(2)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(2)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)、後天性免疫不全症候群(7)、侵襲性肺炎球菌感染症(3)、破傷風(1)

2015年5月報

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

## トピックス

### 伝染性紅斑(図1)

伝染性紅斑はヒトパルボウイルス B19 の感染による「リンゴ病」と呼ばれることもある疾患です。

24週の定点当たり報告数は0.48、23週46人 24週88人(1.91倍)です。

#### 【参考ページ】

豊橋市: 伝染性紅斑が流行しています(6月15日発表)

<http://www.city.toyohashi.lg.jp/item/24852.htm>

### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(図2)

24週の定点当たり報告数は3.24、23週504人 24週589人(1.17倍)です。

#### 【参考ページ】

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について

[http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/a\\_youren.html](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/a_youren.html)

### ヘルパンギーナ

24週の定点当たり報告数は1.30、23週148人 24週237人(1.60倍)です。

#### 【参考ページ】

疾患別ウイルス検出状況(速報)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>

### 手足口病

24週の定点当たり報告数は0.85、23週112人 24週154人(1.38倍)です。

### 後天性免疫不全症候群(図3)(p6,5月報参照)

2015年24週までの累積報告数は47件です。2014年24週までの累積報告数は48件、2014年総計は98件でした。

全国の2015年23週までの累積報告数は575件です(2014年総報告数は1,518件)。

#### 【参考ページ】

アイチエイズインフォメーション

<http://www.pref.aichi.jp/kenkotaisaku/aids/>

### 中東呼吸器症候群(MERS)について

#### 【参考ページ】

中東呼吸器症候群(MERS)の国内発生時の対応について(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000088555.html>

中東呼吸器症候群(MERS)について(健康対策課)

<http://www.pref.aichi.jp/0000083615.html>

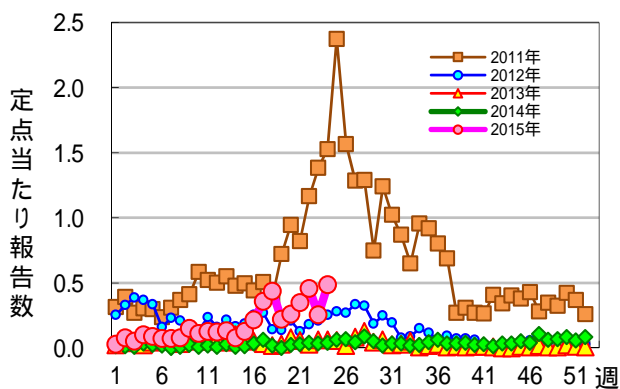


図1 伝染性紅斑

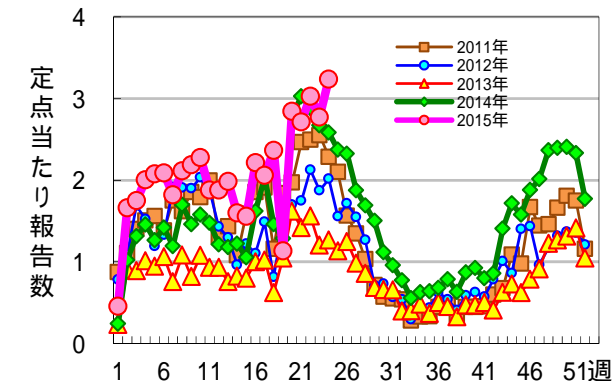


図2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

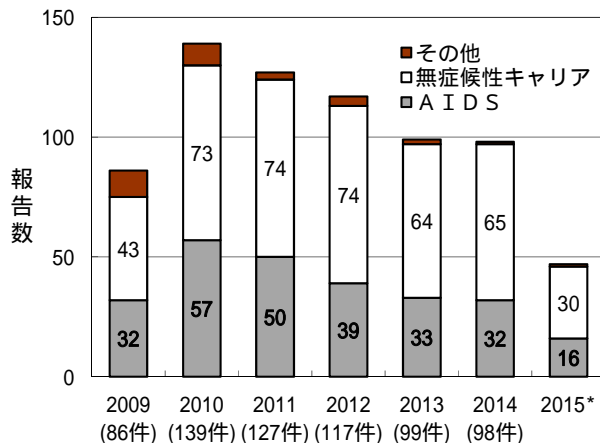


図3 後天性免疫不全症候群の年別・病型別報告数(愛知県、診断週集計 \*2015年は2015年6月17日現在)

病原体検出情報 2015年疾患別ウイルス検出速報 (2015年6月15日現在)

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	* インフルエンザ	** 麻疹・風疹
患者数	105	17	15	5	15	9	13	190	4(6)
CV-A6	-	6	-	-	-	-	-	-	-
CV-A10	-	1	8	-	-	-	-	-	-
CV-A16	-	2	-	-	-	-	-	-	-
FluAH3	-	-	-	-	-	-	1	135	-
FluB	-	-	-	-	-	-	-	20	-
HMPV	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Reo-2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G2	9	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G9	1	-	-	-	-	-	-	-	-
NV G I	1	-	-	-	-	-	-	-	-
NV GII	38	-	-	-	-	-	-	-	-
SV	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-2	2	-	1	1	-	-	-	-	-
Ad-3	2	-	-	-	-	-	-	1	-
Ad-5	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-6	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-41	3	-	-	-	-	-	-	-	-
B19V	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
HSV-1	-	-	-	-	1	-	-	1	-
検査中	31	5	4	4	5	4	6	3	1(1)
陰性	25	3	2	-	9	5	5	31	3(4)

\*インフルエンザは2014/2015シーズンの結果

\*\*麻疹・風疹の( )内は病原体定点医療機関外からの患者数の別掲

略: ウイルス名(他の略名)

Ad: アデノウイルス、B19V: ヒトパルボウイルスB19、CV: コクサッキーウイルス(Cox.)、  
FluAH3: A香港型インフルエンザウイルス、FluB: B型インフルエンザウイルス、  
HMPV: ヒトメタニューモウイルス、HSV-1: 単純ヘルペスウイルス1型、NV: ノロウイルス、  
Reo-2: レオウイルス2型、Rota A: ロタウイルスA、SV: サボウイルス

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

A群溶連菌8名と多く、胃腸炎も目立ちます。  
夏かぜはまだわずかです。

【犬山市 武内医院】

溶連菌感染症流行続いています。

手足口病 4名

伝染性紅斑 2名

アデノウイルス感染症 3名

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

溶連菌感染症、ヘルパンギーナ多発しています。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

67歳女 カンピロバクター検出

22歳女 カンピロバクター検出

22歳女 病原大腸菌O25検出

手足口病、ヘルパンギーナ散発です。

【清須市 丹羽医院】

尾張東部地区

ヘルパンギーナ、伝染性紅斑等(伝染性紅斑は42歳女でした。)

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

インフルエンザB 8人

溶連菌 15人

ヘルパンギーナ 14人

水痘 10人

マイコプラズマ 4人でした。

【豊明市 こども元気クリニック】

入院ではロタはそこそこあります。

外来ではアデノが目立ちます。

インフルエンザB型 大人1名

【春日井市 春日井市民病院】

溶連菌 22例 反復例、家族内感染多数

胃腸炎 16例

ヘルパンギーナ 10例と増加

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

溶連菌感染、感染性胃腸炎(ロタウイルスを含む)が目立ちます。

【小牧市 志水こどもクリニック】

50歳男 病原大腸菌O1(+ )VT(- )

カンピロバクター(+)

【半田市 医療法人林医院】

ヘルパンギーナが増えてきました。

【半田市 ひいらぎこどもクリニック】

溶連菌感染症、胃腸炎が多いです。

手足口病、ヘルパンギーナが出始めました。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

感染性胃腸炎(ウイルス性、嘔吐が目立つ)が多かったです。

ヘルパンギーナがちらほらでてきました。

【東海市 もしもしこどもクリニック】

西三河地区

StrepA(+ ) 6名

*E. coli*(O125) + *E. coli*(O112ac) + カンピロ

7歳男

*E. coli*(O1) + カンピロ 12歳男

*E. coli*(O27) + カンピロ 13歳男

アデノ(+ ) 6歳男

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

咽頭アデノ 3歳女 1歳男

サルモネラ 13歳男

溶連菌感染症多いです。

マイコプラズマ抗原(+ ) 1例 4歳男

【岡崎市 花田こどもクリニック】

感染性胃腸炎、水痘が目立ちました。

【西尾市 山岸クリニック】

病原性大腸菌 7歳女

【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

A群溶連菌感染症が時々います。

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

インフルエンザB型 1名 42歳女

【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】

病原性大腸菌O18 1歳女

病原性大腸菌O1 3歳女

サルモネラO7 5歳女

【豊川市 ささき小児科】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2015年6月17日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun150521.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2015年24週報告数			2015年総計(1～24週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	11	5		310	78	77
豊田市	1		1	26	8	6
豊橋市				35	6	15
岡崎市				18	6	1
一宮	1			43	14	10
瀬戸	15		12	74	11	40
半田	2			18	5	2
春日井	1			29	7	4
豊川				22	7	3
津島	3	1	2	38	7	11
西尾	1			14	6	2
江南	1			29	6	13
新城				10	2	5
知多	1		1	25	6	10
清須				14	5	3
衣浦東部				37	13	7
合計	37	6	16	742	187	209

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

A型肝炎（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	名古屋市	23歳	女	無	国内
2	春日井	69歳	女	無	国内

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	知多	98歳	女	肺炎型	国内
2	衣浦東部	67歳	男	肺炎型	台湾

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	66歳	男	腸管アメーバ症	性的接触	国内
2	名古屋市	64歳	男	腸管アメーバ症	不明	不明

ウイルス性肝炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	予防接種歴	推定感染経路	推定感染地域
1	豊田市	43歳	男	B型	不明	性的接触	国内
2	瀬戸	44歳	男	B型	無	性的接触	国内

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染経路	推定感染地域	90日以内の海外渡航歴
1	豊橋市	54歳	男	不明	国内	無
2	津島	80歳	女	以前からの保菌	国内	無

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	豊田市	61歳	女	国内

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	20歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
2	名古屋市	27歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
3	名古屋市	43歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
4	名古屋市	47歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
5	名古屋市	43歳	女	無症候性キャリア	性的接触	フランス
6	名古屋市	65歳	男	AIDS	性的接触	不明
7	名古屋市	47歳	男	AIDS	性的接触	国内

侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	名古屋市	88歳	男	不明	国内
2	豊田市	77歳	女	不明	国内
3	岡崎市	1歳	女	有	国内

破傷風（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	西尾	87歳	女	無	国内

## 2015年5月報

(2015年6月16日現在、診断週に基づく集計)

## 5月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況〔( )は無症状病原体保有者再掲〕

	2014～2015年に報告のあった 疾病名及び病型 ( )内は全数把握対象疾病数	2015年5月			2015年	2014年
		愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体	累計 <愛知県全体>	総計 <愛知県全体>
一類 (7)	発生報告なし	0	0	0	0	0
二類 (7)	結核	60 (16)	43 (6)	103 (22)	660 (172)	1,867 (531)
三類 (5)	コレラ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	細菌性赤痢	1 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	10 (0)
	腸管出血性大腸菌感染症	12 (4)	6 (2)	18 (6)	29 (9)	132 (30)
	腸チフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)
	パラチフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
四類 (43)	E型肝炎	0	0	0	6	1
	A型肝炎	3	0	3	5	8
	コクシジオイデス症	0	0	0	1	0
	つつが虫病	0	0	0	0	2
	デング熱	0	0	0	5	11
	マラリア	0	0	0	0	1
	レジオネラ症	3	1	4	26	61
五類 (22)	アメーバ赤痢	2	0	2	20	68
	ウイルス性肝炎	0	0	0	4	13
	内訳					
	B型	0	0	0	2	12
	その他	0	0	0	2	1
	カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感染症*	4	2	6	29	19
	急性脳炎	1	0	1	16	18
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	4	11
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	2	5	18
	後天性免疫不全症候群	1	2	3	40	98
	内訳					
	無症候性キャリア	0	0	0	25	65
	AIDS	1	2	3	14	32
	その他	0	0	0	1	1
	ジアルジア症	0	1	1	3	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	0	2	8	16
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	2
	侵襲性肺炎球菌感染症	12	3	15	92	122
	水痘(入院例に限る。)*	0	0	0	7	10
	梅毒	2	6	8	30	113
	内訳					
	無症候	1	2	3	10	50
	早期顕症	0	3	3	15	57
	晩期顕症	1	1	2	5	6
	播種性クリプトコックス症*	0	0	0	5	2
	破傷風	0	0	0	2	4
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	1
	風しん	2	0	2	11	21
	麻しん	0	0	0	0	46
	総計	106	66	172	1,013	2,681

\* 2014年9月19日から、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症(全数把握対象疾患)に追加されました。また、五類感染症の「水痘(入院例に限る。)」及び「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が全数把握対象疾患となりました。なお、五類感染症(定点)の「水痘」は、引続き小児科定点把握対象疾患です。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

疾病名	2015年5月				2015年累計		2014年総計		
	愛知県	名古屋市	愛知県全体	愛知県全体	愛知県全体	愛知県全体	愛知県全体		
	<名古屋市除く>			合計	合計	合計	合計		
性感染症定点	性器クラミジア感染症	男	43	33	76	331	605	900	1,591
		女	35	23	58	274		691	
	性器ヘルペスウイルス感染症	男	7	12	19	96	248	169	643
		女	21	12	33	152		474	
	尖圭コンジローマ	男	9	6	15	87	136	220	347
		女	10	2	12	49		127	
	淋菌感染症	男	22	17	39	190	212	577	657
		女	2	2	4	22		80	
基幹定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		76	5	81	414		1,090	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		5	0	5	46		59	
	薬剤耐性緑膿菌感染症		0	0	0	0		4	
	薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-	-		0	

2014年9月19日から全数把握に変更

感染症法に基づく獣医師からの届出状況

感染症の名称及び動物の種類	2015年5月			2015年累計	2014年総計
	愛知県	名古屋市	愛知県全体	愛知県全体	愛知県全体
<名古屋市除く>					
エキノコックス症の犬	0	0	0	0	1

感染症の類型及び定義(感染症法)

2015年5月21日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症* (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (43疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症** (47疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスのよるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

\* 2015年1月21日に「中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)」及び「鳥インフルエンザ(H7N9)」が二類感染症に追加されました。

\*\* 2014年9月19日に「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症に追加されました。





